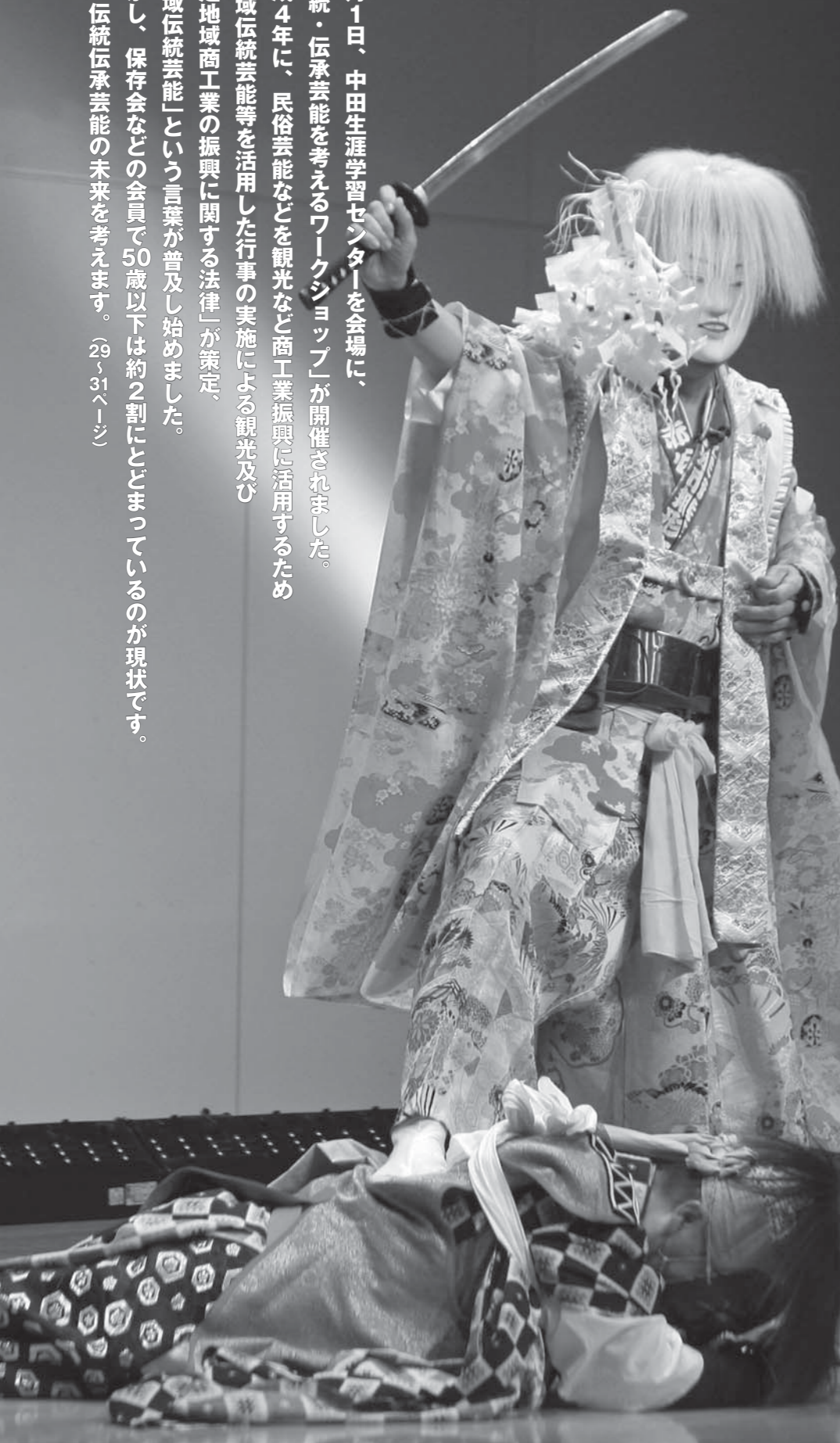


未来に 受け継ぐ

2月1日、中田生涯学習センターを会場に、「伝統・伝承芸能を考えるワークショップ」が開催されました。平成4年に、民俗芸能などを観光など商工業振興に活用するため「地域伝統芸能等を活用した行事の実施による観光及び特定地域商工業の振興に関する法律」が策定、「地域伝統芸能」という言葉が普及し始めました。しかし、保存会などの会員で50歳以下は約2割にとどまっているのが現状です。今、伝統伝承芸能の未来を考えます。(29〜31ページ)



石越の赤谷南部神楽保存会による演舞。財宝を奪い取るため、宿に押し入った盗賊・熊坂長範を牛若丸(後の源義経)が退治し、平泉に下るという場面。この神楽は狂言仕立てになっている珍しい神楽です

自主防災の重要性を学ぶ

災害時に地域でできる自主防災について学び、地域防災力を高めようと「災害ボランティア研修会」が1月29日、石越公民館を会場に開催されました。当日は約100人が参加。講演では、総務省消防庁防災アドバイザーY防災ネット代表の吉田亮一さんが、仙台市内で自ら関わってきた自主防災組織の取り組みを、東日本大震災の体験も交えながら紹介しました。研修会では、業務用無線機の使い方、実演や非常食の試食なども行われ、参加者は、自主防災の重要性をあらためて感じました。

石越 災害ボランティア研修会



▲講師の吉田さんの話に熱心に耳を傾けていました

西郷コミュニティ新春講演会

南方

家族仲良しで地域も元気

西郷地区コミュニティ推進協議会では1月11日、「笑ってなままって地域づくり」と題した新春講演会を開催。会場の西郷公民館には約180人が訪れました。講師は遠野市出身で落語家の六華亭遊花さん。岩手と宮城の方言をミックスした軽快なしゃべりで「むつけた顔より笑った顔がいいっちゃね」と笑いを誘いながら、「夫婦仲良し、家族仲良しだったら、地域の集まりにも行きやすく、地域が元気になっちゃね」などと話しました。参加者は「いっぱい笑ってスッキリした」「地域づくりや毎日の生活の参考になった」とみんな笑顔でした。



▲公民館が寄席に。笑ったりうなずいたりして聞き入っていました

一年の無病息災を願って

横山不動尊の節分豆まきが2月2日、横山不動尊境内で行われ、子どもからお年寄りまで多くの人が詰め掛けました。境内には、本堂で「祈禱を受けた運営委員ら関係者が「かみしも姿」で並び、「福は内、鬼は外」の掛け声とともに落花生の入った袋を勢いよくまきました。訪れた人たちは、一つでも多くの福を呼び込もうと、大きな歓声を上げながら豆袋を拾っていました。まかれた豆袋には、当たり付きの「福豆」も。福豆を拾った人には不動尊前前で祈願された福柎など縁起物が贈られました。

津山 横山不動尊で節分の豆まき



▲豆まきでは、たくさんの福を求めて豆袋を拾っていました